

道路施設等台帳作成要領

目次

項目	頁
0 1 共通	1
0 2 舗装補修台帳	2
0 3 道路標識台帳	3
0 4 道路照明台帳	4
0 5 道路情報板台帳	5
0 6 トンネル台帳	6
0 7 トンネル補修台帳	1 1
0 8 トンネルラジオ再放送設備台帳	1 2
0 9 橋梁台帳	1 3
1 0 鋼橋塗装台帳	1 6
1 1 橋梁補修台帳	1 7
1 2 横断歩道橋（補修）台帳	1 8
1 3 道路附属物（昇降施設）台帳	1 9
1 4 道路附属物（消融雪施設）台帳	2 0
1 5 道路附属物（修景施設・チェーン着脱場・道の駅）台帳	2 1

台帳等作成要領

1 共通

竣工した施設の台帳作成について、統一の様式により、迅速に事務引継ぎを実施し、施設の適正な管理を図ることを目的としている。

台帳の作成にあたっては、各台帳作成要領によるほか、以下に示す事項を留意し作成するものとする。

事務所番号

西部建設事務所	0 1
西部建設事務所廿日市支所	0 2
西部建設事務所吳支所	0 3
西部建設事務所安芸太田支所	0 5
西部建設事務所東広島支所	0 7
東部建設事務所三原支所	0 9
東部建設事務所	1 0
北部建設事務所	1 1
北部建設事務所庄原支所	1 3

道路種別番号

一般国道（指定区間外）	0 3
主要地方道	0 4
一般県道	0 5

路線番号

3桁入力（e X . 0 0 1）

提出部数及びサイズ

3部（原図1部、コピー2部）、A4判

提出はF D、C D等でも可

F D、C D等により納品する場合は、監督員の指示するアプリケーションソフトにより作成するものとする。（写真は、デジタルカメラにより撮影したものを原則とする。）

台帳管理

提出を受けた台帳は、工事完成図書、維持担当課（係）でそれぞれ保管するものとする。

2 舗装工事台帳作成要領

台帳作成対象：舗装新設時及び、工事延長（1箇所あたり）100m以上 の舗装補修を実施した場合に作成し、同一事業において複数の該当箇所がある場合は、それぞれ作成する。（複数年にまたがる事業の場合は、契約単位毎に作成する。）

整理番号：記入不要

道路種別：一般国道、主要地方道、一般県道の別を記入する。

路線名：路線名を記入する。

工事名：工事名を記入する。

箇所：工事箇所を字名まで記入する。（起終点の台帳附図追加距離を併記する。）

事業費：当該事業の事業費を記入する。（箇所毎）

工期：契約工期を記入する。

請負業者：請負業社名を記入する。

内容：工法、舗装材料等を記入する。（複数の工法で実施している場合はその内訳を記入する。）

区分：簡易舗装・高級舗装及び交通区分の別は該当項目に 印をつける。

設計C B R：設計C B Rの数値を記入し、決定根拠の該当項目に 印をつける。

ひび割れランク：ひび割れランクを記入する。（M C Iランクを併記する。）

TAと合計厚：アスファルト舗装要綱を参照し、設定した目標TA、H及び設計TA、Hを記入する。

新設・特四舗装構成：新設の場合に、その舗装構成を記載。

既設舗装構成：舗装補修事業において既設の舗装構成を調査した箇所について記入する。

補修工法：高級、簡易の別及び舗装構成を記入する。

標準幅員構成：標準横断図を添付する。（1/100程度）

位置図：管内図に当該箇所を記入し、添付する。

施工位置詳細図：道路台帳附図（1/1,000または1/500）の起点附近、終点附近の平面図を添付する。
(起終点を記入したもの)

添付資料

現場写真 起点、終点および中間点から該当箇所を撮影し、添付する。（A4判様式自由、4枚程度）

3 道路標識台帳作成要領

台帳作成対象：新規に道路標識を設置・更新した場合に作成する。（表示内容のみの変更についても作成する。）

路線名：一般国道、主要地方道、一般県道の別及び路線名を記入する。

標識種別：標識種別を記入する。（交通安全設計要領参照）

管理番号：事務所番号 - 道路種別番号 - 路線番号 - 通し番号の順に記入する。（更新の場合は、旧管理番号に枝番をつける。）

設置箇所：設置箇所を字名まで記入する。

位置：交差点名を記入する。なお、表示内容のみの変更の際には、その旨記入する。

設置方法略図：略図を添付する。

設置方法：単独の場合；該当項目に印をつける。

添架の場合；該当項目に印をつける。

共架の場合；対象標識の標識種別を記入する。

車道幅員・路肩歩道幅員・クリアランス：現地の実測値を記入する。

標識寸法：板の高さ（H）及び幅（W）を記入する。

照明：該当項目に印をつける。

文字高さ：漢字、ローマ字それぞれについて記入する。

反射シート：文字及び板の色を記入する。

基礎：基礎形式及び寸法を記入する。

支柱：支柱形式及び寸法を記入する。

履歴：新設時からの履歴を記入する。

設置箇所図：道路台帳附図に設置箇所を記入し、添付する。

現況写真：全景及び板面アップの写真を撮影し添付する。（撮影年月日を必ず記入すること。）

4 道路照明台帳作成要領

台帳作成対象：新規に道路照明を設置した場合。

路線名：一般国道、主要地方道、一般県道の別及び路線名を記入する。

ポール番号：ポール番号を記入する。

設置場所：設置箇所を字名まで記入する。

管理番号：事務所番号 - 道路種別番号 - 路線番号 - 通し番号の順に記入する。（更新の場合は、旧管理番号に枝番をつける。）

工事名称：事業名を記入する。

契約内容・基礎・設備機器：該当欄に記入する。

トンネル：トンネル照明の場合に記入する。

設置箇所図：道路台帳附図に設置箇所を記入し、添付する。

現況写真：全景及び施設のアップ写真を撮影し添付する。（撮影年月日を必ず記入すること。）

5 道路情報板台帳作成要領

台帳作成対象：新規に道路情報板，異常気象時情報提供装置及び凍結注意板（三可変）を設置・更新した場合に作成する。

道路種別：一般国道，主要地方道，一般県道の別を記入する。

管理番号：事務所番号 - 道路種別番号 - 路線番号 - 通し番号の順に記入する。（更新の場合は，旧管理番号に枝番をつける。）

設置箇所：設置箇所を字名まで記入し，上り側，下りが側，中央の別を記入する。

（契約内容）：電力，電話回線の契約内容を記入する。

設置方法：単独の場合；単柱，オーバーハング，オーバーヘッドの別を記入する。

添架の場合；歩道橋，照明灯，通信情報板，信号機，電柱の別を記入する。

共架の場合；対象施設名称を記入する。

駆動方式：制御方式を記入する。

情報板収納画・操作盤寸法：それぞれの寸法を記入する。

車道幅員・路肩歩道幅員・クリアランス：現地の実測値を記入する。

標識寸法：板の高さ（H）及び幅（W）を記入する。

照明：該当項目に 印をつける。

基礎：基礎形式及び寸法を記入する。

備考：ベースプレート式の場合アンカー系等を記入する。

履歴：新設時からの履歴を記入する。

設置箇所図：道路台帳附図に設置箇所を記入し，添付する。

現況写真：全景及び板面アップの写真を撮影し添付する。（撮影年月日を必ず記入すること。）

6 トンネル台帳作成要領

台帳作成対象：新設時及びトンネル断面の変更を伴う補修・補強工事を実施した場合に作成する。
(ロックシェッド、スノーシェッドも含む。)

【トンネル台帳 1 / 2】

トンネル名：トンネル名を記入する。

上り線、下り線が別のトンネルの場合には、上り、下りそれぞれ用紙を分けて記入する。(トンネル名の後ろに()書きで上り、下りの別を記入する。)

道路種別：該当する道路種別を選択し記入する。

- 高速自動車国道
- 一般国道(指定区間)
- 一般国道(指定区間外)
- 主要地方道
- 一般県道
- 市町村道(1級)
- 市町村道(2級)
- 市町村道(その他)
- その他(構内施設等)

供用開始年次：一般交通を開放した年次を西暦年(月まで)で記入する。

所在地：トンネルの「所在地」を起点側、終点側それぞれ字名まで記入する。

交通量：設計時の欄に計画交通量、現状の欄は近隣場所での最新調査結果(道路交通センサス等)の値を記入する。

大型車混入率(現状)：計画時の予測値を記入する。

交通量区分：該当する項目に を付ける。

交通形態：該当する項目に を付ける。

施工法：該当する施工法を選択し記入する。

- 山岳工法：標準工法：全断面掘削
- 山岳工法：標準工法：上半先進工法
- 山岳工法：標準工法：側壁導坑先進工法
- 山岳工法：在来工法
- シールド工法
- 開削工法
- 沈埋工法
- 補助ベンチ付き全断面掘削
- ベンチカット工法(上半同時 or 交互掘進)
- 底設導坑先進工法
- リングカット工法(核残し工法)
- 中割式掘削
- 大背土平工法
- 中央導坑式
- N A T M(標準工法)
- 山岳工法：T B M
- 山岳工法：掘進工法
- 逆巻工法
- 頂設導坑式
- 上半中壁分割工法
- その他

複数ある場合は、それぞれ記入する。

トンネル位置：該当する項目に を付ける。

覆工：覆工の有無及び種別について、天井部・側壁部それぞれについて、以下より選択し記入し、
「有」の場合種類及び厚さを記入する。

なし
吹付コンクリートのみ
覆工コンクリート（吹付け含む）
スチール（セグメント）
ブロック
レンガ
その他

覆工厚が一様でない場合は厚さの範囲を記入する。（ex. 10cm ~ 15cm）
一次覆工、二次覆工それぞれについて記入する。

内装：天井部、側壁部それぞれについて記入する。（なしの場合は未記入。）

- ・「材質」：該当する項目に を付ける。
- ・「設置高さ」：路面からの高さを記入する。
- ・「設置区間」：全長・坑口部等該当する区間を記入する。（複数ある場合はそのすべてを記入する。）
- ・「設置延長」：設置区間それぞれの延長の和を記入する。

舗装路面

- ・「舗装路面」：材質について該当する項目欄に を付け、併せて厚さを記入する。

排水施設

- ・「排水施設」：有無を該当欄に記入する。
- ・「側溝」：U型・L型・スリット型・その他の別を記入する。
- ・「排水ポンプ」：有無及び台数を該当欄に記入する。

請負業者：土木工事の請負業者名及び主要工種を記入する。

工種により別途発注している場合はそれぞれ記入する。

設計会社：詳細設計を実施した会社名及び設計年度を記入する。

【トンネル台帳 2 / 2】

換気施設

- ・該当する項目欄に台数、口径、風量を記入する。（換気施設なしの場合は未記入）
- ・送風機の口径が複数にわたる場合は、それぞれを記入する。
- ・換気用のダクトがある場合は、「ダクト断面積」を送気、排気それぞれ該当欄に記入する。
- ・「設定煤煙透過率」及び「一酸化炭素濃度」は設計時及び運用時それぞれ該当欄に記入する。
- ・「制御方法」：該当する項目に を付ける。（複数ある場合は該当する項目すべてに を付ける）

照明施設

- ・「種類」：該当する項目欄に を付ける。
- ・「設置場所」：該当するものを選択し記入する。

天井部
隅角部
その他

複数の設置場所が用いられている場合は、それぞれ記入する。

- ・「設定野外輝度」：入口部及び出口部について該当欄に記入する。

輝度計等で測定不可能な場合は道路照明施設設置基準・同解説（日本道路協会）の野外の輝度を参照し、以下から選択し記入する。

6,000cd / m²
4,000cd / m²
3,000cd / m²

- ・「設置パターン」：該当する項目を選択し記入する。

片側
両側
千鳥
天井部一列
隅角部一列
片側及び千鳥
直列
並列
千鳥及び両側

- ・「配線ケーブル位置」：該当する項目を選択し記入する。

照明器具の高さ
監査路上
天井部
監査路上及びその他
照明器具の高さ及び監査路上
隅角部
側面
その他

- ・「耐火ケーブルの使用の有無」：該当する項目に を付ける。

- ・「施設設計時に路面輝度を1/2に低減？」：応・否について該当欄に を付ける。

道路照明施設設計基準・同解説における「トンネル1本当りの日交通量が10,000台未満の場合、施設の設計時に基本照明の平均路面輝度を1/2に低減しているか」の略

- ・「非常時に点灯する照明レベル」：照明施設の停電時対策として該当するものを選択し、該当欄に記入する。

全点灯
全点灯の1/2
全点灯の1/4
全点灯の1/8
その他（具体的な照明レベル記入する）

- ・「制御方法」：晴天、曇天、夜間、非常時の各条件における制御方式及び制御方法を記入する。

- 1 「制御方式」：該当するものを選択し記入する。

なし
照度計
輝度計
照度計・輝度計併用
受光装置

位置図（管内図に当該箇所を記入したもの）

竣工図縮小版（A3判）

7 トンネル補修台帳作成要領

台帳作成対象：トンネル補修台帳は、車道用及び歩道用として供用しているトンネルについて、漏水対策、断面欠陥部補修等を実施した場合及びトンネル点検等実施時に作成するものとし、断面形状の変更を伴う場合（機能向上する場合）には新設時作成台帳によるものとする。

整理番号：記入不要

トンネル名：上段にふりがなを、下段にトンネル名を記入する。

道路種別：一般国道、主要地方道、一般県道の別を記入する。

路線名：路線名を記入する。

位置：トンネル位置を字名まで記入する。

延長・幅員・高さ・制限表示・竣工年次：当初竣工時の数値及び表示内容を記入する。

交通量：上段に、当初竣工時の交通量（計画交通量）を記入し、下段に現在交通量（最新の交通センサスによる交通量）を記入する。

補修内容：調査時の状況を記入する。

破損箇所及び破損状況：調査時の状況及び調査年月日を記入する。

補修方法：採用する工法を記入する。（計画含む）

工事費：当該補修工事の概算工事費を記入する。

緊急度：調査時の破損状況に応じランクを記入する。

A；早急に対策を要する場合。

B；将来的に対策を要する場合。

C；当面は対策を要しない場合。

補修履歴：1回の点検調査に伴う補修工事を1回の補修履歴として考え、一連の補修工事の竣工年月日、補修内容、工事費を記入する。

備考：バス路線の該当の応否、現況の照明種類及び灯数を記入し、余白部には、過去の点検名称及び点検年月日、ランクを記入する。

状況写真：点検結果に基づき作成する場合は、現況写真を、補修した場合には、補修後の状況写真を添付する。

標準断面図：標準断面図を添付する。（複数の断面を有する場合は、縮尺を変えて全てを添付する。）

位置図：当該箇所を記入した管内図を切り取り添付。

8 トンネルラジオ再放送設備台帳作成要領

台帳作成対象：新規にトンネルラジオ再放送設備を設置した場合及び、設置済設備の設定の変更を行った場合に作成する。

道路種別：一般国道、主要地方道、一般県道の別を記入する。

標識種別：標識種別を記入する。（交通安全設計要領参照）

設置箇所：設置箇所を字名まで記入する。

ラジオ再放送（AM及びFM）設備：各装置等の台数及び延長を記入する。

無線補助設備：割り込み放送設備を備えている場合、各装置等の台数及び延長を記入する。（記入する装置等は、ラジオ再放送設備に準じたもの。）

受信周波数・送信周波数：AM・FMそれぞれについて、設定チャンネル、周波数、放送局名を記入する。

無線補助周波数：県（道路管理者）、警察、消防毎のチャンネル、周波数、名称を記入する。

9 橋梁台帳作成要領

台帳作成対象：新設時及び耐荷力等に影響のある補強を行った橋梁。（土被り1m未満で橋長2m以上のBOXも橋梁として扱う。）

（1）台帳調書

整理番号：事務所番号 - 道路種別 - 路線番号 - 整理番号の順に記入する。

道路種別：一般国道，主要地方道，一般県道の別を記入する。

位置：字名まで記入する。

事業名又他機関名：橋梁を架けた事業名又は他機関より移管を受けた橋梁についてはその機関名を記入する。

実施設計年度：当該橋梁の実施設計を行った年度を記入する。

竣工年月日：当該橋梁の竣工年月日を記入する。

移管年月日：移管を受けた場合は，移管年月日を記入する。

請負施工業者名：当該橋梁の施工業者を上部，下部毎に記入する。

河川名：河川を跨ぐ橋梁について河川名，河川流量，河川改修計画の有無を記入する。なお，河川改修計画の有無は当該橋梁完成時点で記入する。

道路又は線路を跨ぐ場合：跨ぐ道路，線路名を記入する。また，施工委託した場合は委託先を記入する。

交通量：交通センサスに基づき，各種データを記入する。（完成時の最新値）

交通区分：大型車交通量による設計交通区分を記入する。（アスファルト舗装要綱参照）

DID：当該橋梁完成時の最新DIDの区域内か区域外かを記入する。

地域区分：「山地」，「平地」，「市街地」の別を記入する。

雪寒・海岸：当該橋梁位置について「雪寒地域」，「海上部」，「海岸線から100mまで」，「海岸線から100m～200m」，「その他」の別を記入する。

適用示方書：適用した示方書の年次を記入する。

耐震計算：適用した耐震計算の手法を記入する。

橋種：橋種を記入し，橋梁，BOXの別を当該欄に印を記入する。（橋種記号一覧表を参照）

橋長：BOXの場合はBOX長を記入する。

設計速度：当該橋梁の設計速度を記入する。

荷重制限：設計において荷重制限があれば荷重制限を記入する。

斜角：橋台の斜角を起点側，終点側それぞれ記入する。

最小半径：当該橋梁が曲線橋の場合，最小半径を記入する。

橋梁部縦断：起点部及び終点部の橋梁部縦断勾配を記入する。（起点から終点に向かって上り勾配を+，起点から終点に向かって下り勾配を-で表現する。）

高欄・車両用防護柵：車道部，中央分離帯，歩車道境界，歩道それぞれにおける形式，高さ，材質を記入する。なお，高さは路面からの高さを記入する。

落下物防止柵：左右にある場合または点在している場合の延長は総延長を記入する。遮音壁等も明記する。

支承：材質及び種類を記入する。

伸縮装置：「ゴム直線型」，「ゴム歯型」，「鋼製直線型」，「鋼製歯型」，「埋設型」，「その他」の中から選択し記入する。

床版：種類は R C , 鋼床版等構造について記入する。

防水工：防水層の材質は「シート系」，「塗膜系」，「舗装系」の中から選択し記入する。

舗装工：舗装の種類は車道，歩道それぞれについて記入し，特殊舗装の場合についてはその種類を記入する。

塗装工：塗装系は鋼道路橋塗装便覧に基づく塗装系列を外面と内面に分けて記入する。

耐候性橋梁：耐候性橋梁の場合，耐候性鋼材を用いた橋梁またはさび安定処理等を施した橋梁の別を該当欄に 印を記入する。なお，さび安定処理等を施した橋梁の橋梁については塗装系，塗装面積等を記入する。

下部工：橋台，橋脚それぞれについて形式，基礎形式，基礎地盤（土質区分）を記入する。基礎形式等が異なる場合には，別々に記入する。

添架物：複数存在する場合（計画も含む），それぞれ記入する。なお，詳細設計時において荷重考慮されている添架物及び竣工時に設置されている添架物については該当欄に 印を記入する。

排水装置：柵，排水管について規格材質について記入する。排水管については集水排水，垂れ流し排水の別を記入する。

踏掛版：踏掛版を設置している場合は，長さ及び厚さを記入する。

旧橋処理：存置，撤去，移管，なしの別を記入する。

資材調書：上部工，下部工，基礎工毎に記入する。

単価調書：上部工，下部工，基礎工毎に記入する。

上部工：上部工全体設計金額 ÷ 橋面積（地覆部は含めない）

下部工：橋台，橋脚毎に記入する。

橋台（もしくは橋脚）設計金額 ÷ 軀体立積

それぞれ 1 基当たりの平均単価

杭基礎：杭基礎工設計金額 ÷ 杭本数 ÷ 杭総延長

事業年次割：各工種別の年度毎の事業費を記入する。

（2）橋梁一般図

橋梁一般図：竣工図面を A4 判に縮小したもの。

（3）完成写真

全景：正面，側面 各 2 枚 計 4 枚

下面：桁の状況がわかるよう方向を変えて撮影したもの 2 ~ 4 枚

橋歴板：橋歴板のアップ写真 1 枚

塗装記録：塗装記録のアップ写真 1 枚

その他：親柱，橋名板，高欄その他 適宜

(4) 位置図

50,000分の1管内図をタテ15cm×ヨコ20cm程度に切り、橋梁の位置を記入の上(2)橋梁一般図の裏面に添付する。

(5) 橋梁詳細資料

図面：以下の図面をA3判に縮小し一冊にまとめる。

平面図

橋梁一般図

主桁構造図

横桁構造図

対傾構構造図

床版配筋図

橋台一般図、配筋図

橋脚一般図、配筋図

基礎工一般図(杭伏図等)

支承構造図

伸縮装置構造図

落橋防止構造図

消融雪装置一般図

10 鋼橋塗装台帳作成要領

台帳作成対象：鋼橋塗装台帳は、塗装工を実施した鋼橋において作成するものであり、工場塗装、現場塗装いずれの場合にも作成する。また、再塗装を実施した場合も同様とする。

整理番号：記入不要

橋名：橋梁名及びふりがなを記入記入する。

道路種別：一般国道、主要地方道、一般県道の別を記入する。

路線名：路線名を記入する。

位置：橋梁位置を字名まで記入する。

現況：各諸元を記入する。

鋼材トン数・塗装平積・塗装色・塗装系：架設時の状況を記入する。（補強等により変更があった場合は、最新の状況を記入する。）

現況塗膜状態：状態をできるだけ明確に記入する。

塗替履歴：再塗装の都度記入する。

備考：塗装色、塗装系に変更があった場合には、その変遷を記入する。

現況写真：当該橋梁の全景及び塗装部、塗装記録（アップ）について撮影し、添付する。（枚数は適宜）

1.1 橋梁補修台帳作成要領

台帳作成対象：橋梁補修台帳は、耐荷力の変更を伴わない補修を実施した場合及び橋梁点検実施時に作成する。
(側道橋及び自転車・歩行者専用側道橋含む)

橋梁名：上段にふりがなを、下段に橋梁名を記入する。

道路種別：一般国道、主要地方道、一般県道の別を記入する。

路線名：路線名を記入する。

位置：橋梁位置を字名まで記入する。

延長・幅員・荷重制限・適用示方書・竣工年次：当初竣工時の数値及び内容を記入する。

交通量：上段に、当初竣工時の交通量（計画交通量）を記入し、下段に現在交通量（最新の交通センサスによる交通量）を記入する。

補修内容：調査時の状況を記入する。

破損箇所及び破損状況：調査時の状況及び調査年月日を記入する。

補修方法：採用する工法を記入する。（計画含む）

工事費：当該補修工事の概算工事費を記入する。

緊急度：調査時の破損状況に応じランクを記入する。

A；早急に対策を要する場合。

B；将来的に対策を要する場合。

C；当面は対策を要しない場合。

補修履歴：1回の点検調査に伴う補修工事を1回の補修履歴として考え、一連の補修工事の竣工年月日、補修内容、工事費を記入する。

備考：バス路線の該当の応否、現況の照明種類及び灯数を記入し、余白部には、過去の点検名称及び点検年月日、ランクを記入する。

状況写真：点検結果に基づき作成する場合は、現況写真を、補修した場合には、補修後の状況写真を添付する。

標準断面図：標準断面図を添付する。（複数の断面を有する場合は、縮尺を変えて全てを添付する。）

位置図：当該箇所を記入した管内図を切り取り添付。

1.2 横断歩道橋（補修）台帳作成要領

台帳作成対象：横断歩道橋の架設工事を実施した場合及び横断歩道橋の点検・補修を実施した場合に作成する。

整理番号：記入不要

橋名：下段に橋名を、上段にふりがなを記入する。

道路種別：一般国道、主要地方道、一般県道の別を記入する。

路線名：路線名を記入する。

位置：位置を字名まで記入する。

橋梁型式：以下の表を参照し、記号を記入する。

1) 主桁型式

区分記号	上路・下路	主桁断面	床部構造	適用支間
H D	上路形式	H形（H形圧延形鋼）	RCプレキャスト床版	17.5m以下
I D	"	T形（溶接I桁）	"	"
I T	下路形式	"	鋼床版	30.0m以下
C T	"	C形（プレスC形鋼）	"	"

2) 階段部型式

区分記号	階段部の平面形状	踊場支柱の有無	階段主桁断面	階段構造
S A	直線形	有	溝形鋼	RCプレキャスト床版
S C	"	"	"	鋼床版
S E	"	無	溶接I型	"
S F	"	"	プレスC形鋼	"
S B	コ字形	有	溝形鋼	RCプレキャスト床版
S D	"	"	"	鋼床版

架設年次・橋長・幅員・支間割：できるだけ詳細に記入する。

鋼材トン数・塗装平積：数量を記入する。

横断歩道橋については、資料等がない場合次の数式により算出する。

鋼材トン数 橋長 × 1 t

塗装平積 鋼材トン数 × 2.5

塗装色・塗装系：分類記号を併せて記入する。

塗膜状況・塗装状況・目隠板状況・その他状況：調査年月日及び状況をできるだけ詳細に記入する。

補修履歴：補修年月日及び内容を記入する。

1.3 道路附属物（昇降施設）台帳作成要領

台帳作成対象：新規に道路附属物（昇降施設）を設置した場合。

道路種別・路線名：一般国道、主要地方道、一般県道の別及び路線名を記入する。

施設名称：施設名称を記入する。

（管制運転）

地震時：地震時管制運転の有無及び制御する地震波の別を該当項目に 印をつける。

火災時：火災時管制運転の有無を該当項目に 印をつける。

ピット内浸水：ピット内浸水管制制御の有無を該当項目に 印をつける。

位置図：道路台帳附図に設置箇所を記入し、添付する。

現況写真：全景及びかご内部のアップ写真を撮影し添付する。（撮影年月日を必ず記入すること。）

1.4 道路附属物（消融雪装置）台帳作成要領

台帳作成対象：消融雪装置を設置した際に作成する。

道路種別：一般国道，主要地方道，一般県道の別を記入する。

設置箇所：設置箇所を字名まで記入する。（橋梁に設置した場合は橋梁名も併せて記入する。）

竣工年月日：事業の竣工年月日を記入する。（複数年にまたがって施工した場合は施設完成年月日を記入する。）

工法名：該当するものを選択し，記入する。

地下水散水方式

電熱方式

地下水直接循環方式

空気熱源ヒートポンプ方式

深層地熱直接方式

その他（名称記入）

システム構成：該当するものを選択し，記入する。

温水ボイラー使用温水循環方式

自然熱源ヒートポンプ使用温水循環方式

温泉水熱源直接温水循環方式

温泉水熱源自然流下ヒートポンプ方式

地熱利用温水循環パイプ

地熱利用ヒートパイプ方式

電熱線方式

その他（名称記入）

熱源：熱源を記入する。（ガス，重油，地下水等）

契約番号：電力を受電し，熱源としている場合に契約番号を記入する。

路面埋設材：埋設材名称を記入する。

制御方式：オン・オフ，水温，弁等制御項目及び方式を記入する。

システム構成図：略図を記入する。

1.5 道路附属物（修景施設・チェーン着脱場・道の駅）台帳作成要領

台帳作成対象：修景施設、チェーン着脱場、道の駅等の施設が竣工した際に作成する。（緑地帯含む。）

路線名：一般国道、主要地方道、一般県道の別及び路線名を記入する。

設置箇所：設置箇所を字名まで記入する。

竣工年月日：事業の竣工年月日を記入する。（複数年にまたがって施工した場合は施設完成年月日を記入する。）

移管年月日・移管先：管理を移管する場合は、移管先及び移管年月日を記入する。（協定書等がある場合は添付する。）

施設名称：事業名及び施設名を記入する。

植栽等内容：植栽工を実施している場合に植栽の名称及び本数を記入する。

主要施設等：照明・標識等設置している施設の名称及び数量を記入する。

添付資料

- 1 施設一般図縮小図面（A4判）
- 2 管理協定等を締結している場合は、協定書等